

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.19 2017年・夏号

ヤオゴト。

パン作り、野菜栽培、カホン、ウクレレ、山のレスキュー、
太極拳、上方舞、陶芸、木工、食品サンプル作り……
こんなにある、八尾であたらしい体験・習い事!

新企画〜次世代ヤオマニア
こども音頭とりシスターズ登場!



Yaomania Vol.19 夏号 2017年9月15日発行 発行(社)八尾市観光協会 八尾市北本町2-1-1 ベントラザ20号 TEL:072-997-1622 FAX:072-997-1408 編集1408 定価0円 Printed in Japan

八尾の
魅力
市政70周年
プレイベント

GUINNESS
WORLD
RECORDS
町おこしニッポン
ギネス世界記録*
町おこしニッポン



YAO KAWACHI ONDO FESTIVAL
40TH ANNIVERSARY



ギネス世界記録 挑戦

LARGEST BON DANCE

9/9 SAT 10 SUN

第40回 八尾河内音頭まつり

開催日 平成29年9月9日(土)・10日(日)

時間 10:00~20:30 場所 久宝寺緑地

※会場へは公共交通機関をご利用ください。近鉄八尾駅・地下鉄八尾南駅から無料シャトルバスも運行します。

主催：八尾河内音頭まつり振興会 TEL：072-994-5741

後援：観光庁 公益財団法人 大阪観光局 一般財団法人 地域伝統芸能活用センター

詳しくはホームページで

八尾河内音頭まつり 検索

ウェブサイトへのアクセスに便利な
こちらをご利用下さい。



イスのような箱を叩けば愉快的音! KUKURUカホン教室

取材・文=きむあつこ 写真=内池秀人

講師の上沼健二さんは「地味にスパルタ」をモットーに指導。「カホンを通じていい意味で満足していく毎日を送っていたら、どうすれば無理なく演奏を楽しめるか、全身全霊でお伝えしたい」。会話が時に哲学的になることもありますが、セッションが始まるとたちまちテンポのいいリズムが部屋中に満ち溢れ、不思議な魅力に心を奪われる。「生で見て、やりたいと思った」という生徒さんばかりで、演奏中の表情は実に楽しそう。八尾で学べるのはここだけで、当初は「KUKURU」店内だったが、音が大きいため現在の場所へ。敬老の日(9/18)の演奏会に向けてキレッキレな指導が続く。



上沼健二さん
パーカッショニスト、ドラマーでありフィドラー*。使いこなす楽器は20種以上で躍動感あふれるパフォーマンスが人気。とにかく人のおもしろい」と八尾が大好きに

ペルー発祥の打楽器。「いま始めないと後悔するかも」とカホンを学ぶ生徒さん。「家では膝を叩いてリズムを覚えるようにしています」

●会場/用和小学校集会場(八尾市山城町3-1-46)
☎072-989-7364(KUKURU)
マンツーマン30分3,000円(月1回開講)、曜日・時間は相談

でいご勇さん

25年前、大正が「沖縄の街」として盛り上がる前から民謡酒場を出店。閉店した後も「草分け的存在」として知る人ぞ知る。大阪各地でも「うた三線」を指導



4年前の開店当時から開催。最初は数名だった生徒も今や20名。生徒の中には自らの職場や介護施設でボランティア演奏する者も

●八尾市植松町5-8-30 ☎072-998-0305
レッスン120分1,000円(水曜18:00~20:00)

ヤオンチュウも「うた三線」で心一つ! 沖縄料理ち~ちゃん 三線教室

取材・文・写真=西村由起子

沖縄好きが集まる同店の常連客の中には三線や琉球民謡が好きなのも多く、生徒は客の紹介や口コミで自然と増え、小学生(一)から年配の人まで幅広い。講師のでいご勇先生は沖縄出身で幼少の頃から三線に親しんできた。実は沖縄でも三線が弾ける人は少ない。先生曰く「厳しい師匠で、私は稽古のたびに頭痛薬を飲んでいた」が、こちらのレッスンは楽しいのでご安心を。入会金も手続きも不要、時間になれば生徒が集まり三線を弾き始める。「好きな曲をみんなで弾いて歌って。三線はみんなを笑顔に、友達にしてくれる」。レッスンは、1階で沖縄料理を囲んでわいわいするのが楽しみ。

櫻井じゅんさん

ギターやウクレレ、手づくり楽器を使い、児童音楽に携わる。ハワイアン、民族音楽、ジャズ、ポピュラーなどの演奏やウクレレ・ギター講師としても活躍

生徒の本本俊之さんは福万寺町から熱心に通う。「手品をやる友人にコレ覚えてこいと(笑)。先生がうまくしてくれるので毎回すごく楽しみです」

●八尾市東本町3-2-29
☎072-989-7364
火曜~日曜の9:00~19:00(ランチタイム除く)、時間は応相談。マンツーマン形式で1レッスン1時間2,500円(コーヒー付)



長屋カフェに似合うほっこりサウンド。 KUKURUウクレレ教室

取材・文・写真=きむあつこ

「ポール・モーリアの『オリリーブの首飾り』は出だしの♪チャラララララー♪がスムーズにいけば大丈夫。余裕を持ってゆつくりつま弾くといいですよ。軽やかなトックで雰囲気や和らげながら講師の櫻井じゅんさんがコツを伝授。合間に美味しいコーヒーを飲みながら、大好きな曲や思い出の歌に浸れる。隣のお客さんがウクレレに興味を持ち、レッスン生になっってしまうこともあるそうだ。「ウクレレはハワイアンやお笑いのイメージが強いけれど、いろいろな音楽に合う奥深い楽器です。ギターを弾きたかったけれど断念したとか、なにか楽器をはじめたい人におすすめ。世界が広がりますよ」

ヤオゴト、はじめよう。

新しい習い事を計画的にはじめる人もいれば、まったくの偶然に「出会ってハマった」人もいる。八尾は「出会ってハマる」機会が多い場所なんだとこの特集を編集して実感した。コンパクトなまちなのに、人も自然なものづくりも地域のキャラも多彩なので、習い事や体験もバラエティ感満載になるのは当然ですよね、はい。

Musical Instrument



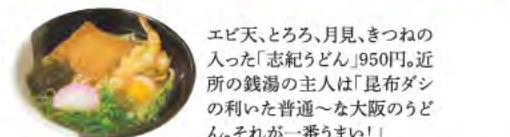
岡部隆雄さん
「志紀うどん」マスターの先輩にあたる。ごく普通のうどん屋がギター教室と化すきっかけを作った張本人。「志紀うどんバンド」を結成し、マスターはじめ有志たちで老人施設へ慰問ライブもスタート

左端から左回りにマスターの宮崎誠治さん、高木さん、小学生の田村月冬くん、木元優奈さん、スタッフのしーちゃん、岡部先生。やはりライブ告知より「きつねうどん六〇〇-」が目立つ。たて焼き6個300円もおやつにアテに人気

子ども=真剣、大人=のほほんど弾き語る。 志紀うどん ギター教室

取材・文=西村由起子 写真=田村一成

「うどん屋でギター?」ほんまかいなと思いつつ店の前まで訪れてみると、出汁の香りに混じってとぎれとぎれのギターの音色がもれてくる。日曜日の15時。お昼時ではないとは言え、マスターはじめ誰もうどんを作る素振りのない店に、出入りするのにはギターかっぴだ大人や子ども。うどんを食べるはずのテーブルにコードが直筆で書き込まれた楽譜を広げ、レッスンが行われる。生徒が増えてくると、岡部先生のアシスタントとしてマスターやスタッフも指導に当たる。「難しいことは教えられませんが」とみなニッコリ。生徒の高木啓治さんも「このユルさがいい。ちゃんとした音楽教室やったら敷居が高くて通えませんが」。のほほんどギターを弾き、ときには歌い出す大人たちと引き換え、子どもたちは真剣そのもの。このギャップも面白すぎる。



エビ天、とろろ、月見、きつねの入った「志紀うどん」950円。近所の銭湯の主人は「昆布ダシの利いた普通〜な大阪のうどん。それが一番うまい!」



●八尾市志紀町2-1 ☎なし
初心者向けギター教室
(日曜15:00~23:00/1ドリンク付き60分)
一般1,000円、子ども500円 ※要予約

ものづくりを図面からどっぷり味わう。 家具工房 室 木工教室

取材・文=西村由起子 写真=田村和成

真室裕之さん

この道30年の職人。「頑固な昭和の人」ではなく、物腰柔らかく穏やかで、良い意味で期待を裏切る。洗練された佇まいも、服飾出身と聞いて納得



上/小学生が造ったとは思えない力作。シンプルな造りで無垢材の温もりが伝わる 左/実際に生徒さんたちが引いた図面の一例。図面に従って材料選びからアドバイスを下/先生愛用の工具を自由に使って作れる

明るく開放的な空間。プロのアイデアや技術に触れながら楽しむ女性も多い。先生が愛娘の誕生祝いに作った木馬もある

●八尾市神宮寺3-70-2
☎072-976-8606
木工教室1回3,000円(日曜日、要予約。作りたいものによって所要回数、材料費異なる)



「収納ケースを作りたい」とやってきた小学生の男の子。先生の工具を使いこなし、完成したときにはこの笑顔

以前は太田にあった工房を神宮寺の畑の真ん中に移転した。倉庫風の建物は大きく開放放たれていて、誰でも中を覗くことができる。大型機械に交じって手仕事の木工家具が展示され、ちょっとしたアトリエに。通りすがりの人が思わず好奇心を刺激され、立ち寄ることも多い。以前は家具職人の道を本気で目指す人を対象にしていたが、この地に来てからは「いろん

な人にもものづくりの楽しさを味わってもらえたら」と無垢材を使った木工教室を不定期開催している。決められたものを作るのではなく、小箱や写真立てなど工作感覚の作品から本棚などの家具まで、体験者が作りたいものを自由に作ってもらうスタイル。いずれも図面を引くところから行う、かなり本格的な内容。予想以上に時間もかかるが、その分だけ愛着もひとしお。



玄関に展示されている、なおさんの作品。普段使いたい素敵な器だ

●八尾市南木の本7-67 ☎072-923-2574
月~木曜、隔週の日曜11:00~19:00 1日体験は2時間3千円(1kgの粘土で手びねりや電動ろくろを体験、3作品を予定)、ツキイチ会員1回2時間2千円(焼成代別)、一般会員(2時間×3回)1か月6千円(焼成代別) ※すべて要予約



1日体験はできるけど多くの工程を体験してほしいという趣旨で、このような器を制作する

●八尾市大竹7-304 ☎080-2093-1971
10:00~18:00(夜間は相談)、1日体験コース約2時間(2千円)同伴の子ども(小学生以下)は半額~適宜、修得コース1回2時間程度1,500円(粘土代別途kg1,000円)、近鉄河内山本・瓢箪山・服部川の各駅、大竹バス停からの車送迎可(3名まで)



上がり框の2畳の間に飾られた陶芸作品。大作のオブジェもある

●八尾市相生町1-10-22 matsunomi.tougei@gmail.com ※連絡はメールで
水曜14:00~16:00、18:00~20:00、土曜10:00~12:00、14:00~16:00 1日体験は2時間3,000円(1kgの土を使用)、2回体験5,000円。月会員7,000円(入会金5,000円・月3回/焼成代別)、チケット会員11,000円(入会金5,000円・4か月有効/焼成代別)

築160年の古民家で習う「河内焼」。 河内焼 剣水窯

取材・文・写真=きむあつこ

宮寄剣水さん

京都・唐津・高取の窯にて修業。1976年剣水窯を京都伏見に築窯、80年に八尾に移す。年に1回以上の個展、グループ展を開催

ご近所の生徒さんたちは「2時間があつという間。おしゃべりしながら手を動かしているの、脳の活性化にいいかも(笑)」と楽しそう。優しいまなざしで見守る剣水先生となお先生。ええ雰囲気です

高安山麓でゆったり器づくり。 陶芸倶楽部おばた

取材・文・写真=きむあつこ

20年前からコツコツ陶芸を学び、楽しんで来た小畑佳弘さんは中古の窯を購入して自宅焼成をはじめた頃に前述の宮寄剣水師匠から「設備が揃ったなら教室を」と勧められ、開講。「駅近もいいですが、高安山の自然の魅力は捨てがたいもの。お教えするというより、素敵な器づくりに協力したいですね。その値打ちに合うかどうか、お手頃と感じてもらえたら」と費用はかなり低め。1個体験(手びねりや電動ろくろ・約30分)もあるし、1日体験では手びねり、削り成形、絵付け・釉薬掛け、電動ろくろの基本を学びながら4つの器を作る。「いつか陶芸を...という人の夢を応援したい」と背中を押す。

小畑佳弘さん

子どもの頃に人間国宝らしき人が自作の茶碗でご飯を食べているCMを見て陶芸に興味を持ったものの「学び始めたのは30過ぎてからなんです」



高安の景色を見ながら電動ろくろで制作中。2015年に教室開講

路地の向こうのほのぼの空間。 松の実陶房。

取材・文・写真=きむあつこ

路地を抜けたら...のコピーのままの昭和な佇まいの路地裏に松本康代さんの工房がある。「9年前、地元でアトリエになる場所を探していたらこの長屋を見つけ、すぐ気に入ったので陶房として築窯しました。八尾の人やモノとつながりたい気持ちもあり、教室も開いたんですよ」。長屋とはいえ、昔の間取りなので思いのほか広く、自宅にいるような安心感が。「気さくにおしゃべりしながら作陶できるので、お茶タイムも設けているので、そんなゆるやかさが皆さんの楽しみかも(笑)。日常の中でものづくりの環境があるのは心の栄養になるんですね」と穏やかに語る。

松本康代さん

日展や全関西美術展、朝日現代クラフト展他に出品受賞。新陶彫協会会員。第19回新陶彫京都展が京都市美術館別館で開催(6/13~18)



500年前から続く学びの場、 顕証寺の習い事は 心と身体に効きそう。

取材・文=きむあつこ 写真=内池秀人(雅楽)



見事な軒唐破風屋根の山門を入るところから気持ちが変わる



特別に本堂で演奏を披露してくれた。音の響きが素晴らしい。表紙はこのシーン



燈路まつり(今年は9.10)の顕証寺本堂で行う舞楽法会で演奏する。今年は装束ではなく、私服に式章をつける予定



ちらりと楽譜を見たが……意味が分かりませんでした(汗)

● 雅楽をやってみよう!

雅楽は約1400年前に日本に伝わった宗教音楽で、宮廷や寺社で演奏されるなど伝統的な要素が強い。気軽に学べる場所はないが、これはいつからでも参加できる。こんなウエルカムなところは府内でもおそらく顕証寺だけ。「我々は修行中に雅楽を学び、法要やお勤めで演奏しますが、みなさんにも楽しんでいただく」と2年前に教室を始めました」と第20代住職の近松真定さん。学ぶ楽器は箏、龍笛、笙の三管。

「箏は天から差す光、箏は地上の音、龍笛は天と地を行き交う龍の鳴き声で空。天、地、空を合わせることでその合奏が宇宙を表すのです」と竹淵の旭林寺から箏を教えに来る澤田秀祐さんは語る。なだらかな抑揚をつけながら音程を変える独特の旋律を聴くと、時空を超えた世界に導かれたような気がする。東大阪市の荒木美恵子さんは「教室名に惹かれ、気がついたら1年、全く縁のなかつた世界に身を置いて箏を吹いています。もつと上手になって堂々と演奏したい」。燈路まつりが楽しみという。

● ヨガ・フリースタイル セッション

「お寺でヨガ」は7年前から顕証寺で開催されている。ヨガのポーズを用いて自身の骨格や筋肉、関節に合った動きを取り入れ、心身の機能を高めることを目指す。「体は年齢とともに可動域が狭くなるので、呼吸に合わせて動かすことで本来の機能を取り戻し、気持ちやすつきりするだけでなく、病気の

の予防にもつながります。メンテナンスのようなものですね」とインストラクターの多田尚子さん。最初の30分は各自近況を語りながら体をほぐす。知らず知らずのうちに心が通い、居場所のようになっていく。「お寺という空間は本当に気持ちよく、ここできれば続かなかつたかも。自分をリフレッシュできる大事な時間です」。5年以上通っている生徒さんの言葉に寺の磁力を感じた。

● LIU 武術協会太極拳

今年5月にスタートした新しい教室で、講師の劉(リウ)一丁(イチテイ)さんは四川省成都出身で幼少の頃から英才教育を受け、2000年の中国太極拳全国チャンピオンとなったすごい人。大学で中国医学を学び、アメリカに向かうはずが日本人男性と結婚し、八尾住民となった。劉さんは「大阪に近く、自然も多いため八尾はめっちゃ好き。太極拳の神髄をみなさんにお教えしたい。心技体、とくに心が強くなりますよ」と言い、明るく熱心な指導が生徒さんに大人気だ。



右/畳から寝転んでも大丈夫。広々と使えて、本当にうらやましい 上/「心と身体のつながりを日々の生活に取り入れてほしい」と多田さん



左/太極拳のポーズといえば、コレ! 劉先生の体軸が垂直にびしりと決まっている 上/気候のいい日には本堂の前でやることも



●八尾市久宝寺4-4-3
雅楽をやってみよう
第1・3金曜日17:30~18:30、小学生以上 1回500円
楽器の貸出可 ☎072-993-1144(顕証寺)
ヨガ・フリースタイルセッション
火曜10:30~12:30 1回600円
☎090-1909-9837 (NPOヨガ・フリースタイルセッション、Freestyle Move Studio)
LIU武術協会太極拳
月3回土曜9:30~11:30(強化コース)、11:30~13:30(初心者コース)、
入会金5,000円、月額6,480円 ※法要等で顕証寺が使えない場合あり。
7月から子ども教室が志紀で開講 ☎072-924-3515(オレンジガーデン)

高安山の自然に「緑の下の力持ち」。 山のレスキュー探検隊

取材・文=きむあつこ 写真=内池秀人

Nature



大東弘さん
NPO自然と緑の指導員で鶴見緑地に勤務。かつては昆虫少年だった

「この大木は目印になるので残したかったが、全国的なナラ枯れの原因であるカシノナガキクイムシにやられているので伐採するんです」

環境問題に取り組む「環境アニメイトイドやお」の活動の一つが高安山の森林整備と里山再生を目的とするこの事業。森林ボランティアを養成する「高安の森自然楽校」の受講生が卒業後に活動するが、一般の参加もOK(弁当持参)。「レスキュー」だけあって倒木の恐れのあるクヌギをチェーンソーで伐るとか、密集する笹を刈り取り、整備用の道を造成するなど内容は本格的。一般参加の三好忠勝さんは、「1年半になりますが

「山は危険だけど、自然がいっぱいで気持ちいい。若い人に引き継いでほしいですね」と30年以上高安山の自然活動に参加している東條公子さん。野生の三つ葉を採ってくれた

山の仕事は楽しい。虫や花、木の専門家がもらえるのですごく勉強になります。八尾の自然を満喫できますよ。藤井勝さんは「ロープや番線の結び方も教わったのでサバイバルに強くなるかも」と語った。自然を次世代に引き継ぐための山仕事は相当な努力を必要とするが、喜びも大きいと見た。



上/伐採したナナミノキに椎茸菌を植え付けている三好さん 左/藤井さん「自然のを知ると、実生活でも違う世界が見えてきます」



こんな木の下で体を動かせば、「おつかれさん」の一杯が全身にしみわたること請け合い



●八尾市楽音寺6-10
大阪経済法科大学の裏山
環境アニメイトイドやお事務局
☎072-924-9359(八尾市環境保全課)
月1回の平日10:00~15:00に活動

2017夏 八尾の体験・習い事と 夏祭り・河内音頭 MAP

地図=マップデザイン研究室

- ふとん太鼓
- だんじり
- まくら太鼓
- 神輿のみ
- 河内音頭・盆踊り



「夏祭りの友」7月1日見参!
高知県から八尾に移り住んで祭りにハマってしまった中辻えり子さんの「八尾の祭り」を楽しむわくわく実行委員会が2000年以來17年間ずっと発行している『やおの祭まつぶ』は、今年は7.1(土)にお目見え。八尾市観光案内所や八尾市役所、八尾市の公共施設ほか市内各地で配布されます。ぜひゲットして今年も現場に行ってください。

左/8月1日の恩智祭り。最後の力を振り絞って恩智神社の石段を登る。祭りが終わるともう秋の気配が…… 右/この超タテ長が目印。秋祭りまでぎっしり載ってます



ヤオゴトExtra① 年に一度。京の習い事を八尾で! 與兵衛桃林堂 古代辻が花染め

取材・文=きむあつこ
絞り染めの源流と言われ、室町から安土桃山時代にかけて一世を風靡した。100年ほどで姿を消し、幻の技法と呼ばれていたが、それを復元した京都の染物作家・佐々木宗一さんが「與兵衛(よへえ)桃林堂」で昨年、今春と続けて作品展を開いた。絞り独特の柔らかな輪郭に繊細な墨描きが施され、時代を象徴する自由奔放で大らかな文様が300年を生きた登録有形文化財の空間に溶け込む。期間中、辻が花染め体験教室も同時開催。「河内木綿など染物に関心の高い場所柄か、八尾の方はよく楽しまれていますね」と佐々木さん。来春の開催が待ち遠しい。

●八尾市東本町2-5-12
☎072-929-3663 9:00~18:00 月曜休



今年の体験は竹繊維の生地に模様を描く。約1時間3,500円。春らしいショールとして使え、好評だった



居相さん(右)は祖父の影響で日本舞踊のお稽古を6歳で経験。2006年に山村若静紀門下に入門。2010年名取(山村若静和)、2013年師範に。幼い頃から着物が大好き

ヤオゴトExtra② 「たしなみ」を知る大人の女を目指せ! 上方舞 教室

取材・文=写真=西村由起子
講師の居相美和子さんは、普段は大阪の谷町六丁目に着付けと上方舞教室「きものと舞う」を開いているが、地元八尾でも上方舞や和装をもっと気軽に楽しんでほしいと、実家も稽古場として開放した。八尾と言えば「河内音頭の盆踊り」だが、上方舞も同じ日本舞踊でありながら、性格は全く異なる。踊りは軽やかにステップを踏むのに対し、舞はじわとゆっくりとした動き。最初は手習い曲で、



「もっと日本の伝統や文化を知りたい」と習いはじめた生徒さん。「着物を着る機会も増えてうれしい」とも。彼女は元々古武道を習っていたせいか「身体の軸がしっかりしていますし、振りの覚えも早いですよ」と



大阪野菜を育て、かまどでクッキング。 旧植田家住宅 なにわの伝統野菜体験農園

取材・文=きむあつこ

18世紀の会所屋敷・旧植田家住宅では敷地内の庭に畑を設け、子ども向けの体験農園を実施している。夏は玉造黒門越瓜や勝間南瓜、毛馬胡瓜、難波葱、碓井豌豆、冬は田辺大根、天王寺蕪など、「天下の台所」と呼ばれた近世大坂の食を支えた地野菜を栽培し、昔のかまどで調理・試食する。「世話をした野菜を収穫して食べると、本来の味が分かり、野菜好きになりますね。毎回抽選になりますが、お母さんのほうが本気かな(笑)」と担当の伊藤富美子さん。

子どもたちは放課後や週末に水やりや草抜きなどに通い、伊藤さんたちは虫などの被害に遭わないよう、畑を守る。ゴマ粒のような種や小さな苗から立派な野菜が穫れるので、子どもたちは興奮しっぱなし。小さな畑から生まれる喜びの世界は実に大きい。

上/最初はこうやって種をまくところからはじまる 下/立派に育った田辺大根を自分たちで洗う。違う世代ともつながる



上/おいしい豆ご飯のためにウスイエンドウを丁寧に取り出す 下/かまどで炊いた金時人参入り「大根めし」。食育は楽しくてウマイ

●八尾市植松町1-1-25
☎072-992-5311 体験農園は半期ごとの募集で対象は3歳~小学6年生
参加費500円(半期分/肥料代、その他含む)
※次の募集は8月中旬以降の予定

伊藤富美子さん

街育ちながら野菜作りハマり、八尾市内に大きな畑を借りて農業女子の道へ。「日焼けなんか気にしません(笑)。農家さんに教えてもらった技術を体験農園に活かせられたら」

やわらかく甘みの強い金時人参の説明をする伊藤さん。子どもたちは「ふだん見ているニンジンと違う」と思っているかも



金平糖の手作り体験は(世界中探しても)ここだけ!?

[コンペイトウミュージアム]の菓子体験

取材・文=きむあつこ
写真=MIKIKO

中世の王様が金平糖の歴史と文化を語り、そうかと思えば民族衣装に着替え、ギター片手にポルトガル民謡を本格的に披露……野村卓会長の謎っぼさが大ウケの「コンペイトウミュージアム」では金平糖に色と味が付けられる体験が大人気だ。10日程かけてグラニュー糖を結晶化させた真っ白な金平糖を材料に、ミニ釜で仕上げの色と味付けを行う。赤・黄・青・緑・オレンジの5色とピーチやパイナップルなど6パターンの味を別々に組み合わせられるので、青色でパイナップル味とかのミスマッチもOK。熱々の出来立てをほおばるとジュワジュワ、シャリシャリと口の中で溶けていくので、これもめったにない体験だろう。食べるのがもったいないぐらいの金平糖の愛らしさにきっと大人のほうが胸キュンになってしまうかも。

●八尾市若林町2-88(大阪糖業) ☎072-948-1339
体験は10:00、14:00の1日2回(約90分) 日・祝休 土曜不定休
1,200円(2歳以上) ※10名以上の団体が対象



1準備された真っ白な金平糖がコレ 2釜を回しながらじんわり温めていく 3色蜜をかけると「あ、変わった」 410分ほど釜炒りすると出来上がり♪



ガニュー・レミーさん
トントンはフランス語で「おじさん」。来日した理由は製パン技術の指導。会話はフランス語中心だが身ぶり手ぶりで通じ合うのも楽しい

子ども向け体験教室では人気のクリームメロンパン「ルシャン」ともう1品作ることができる。パンが発酵するまでの間は、サクサクのラスクを焼いて、食べながら待つ

プロ中のプロ直伝! フランス仕込みのパン作り。 ブーランジェリー トントンレミー 子どもパン焼き体験

取材・文=西村由起子 写真=内池秀人



上/とくに、手前のプチバゲット123円はフランスパン好きが惚れ込む逸品 下/フランスパンの聖地を思わせる三色旗が目印だ

●八尾市明美町1-1-29
☎072-991-3833
子ども向けパン焼き体験教室
120分1,500円
(土曜日の13:30or14:00~要予約)

片言の日本語と茶目ついたつぶりの笑顔。「レミーおじさん」の愛称で知られるフランス人パン職人のペーカリーとしておなじみのお店だが、パン焼き体験教室まで知っている人は少ない。イートインスペースから厨房を覗くとパンを作る工程の一部始終を見ることができるとは、興味津々で見つめる子どもたち「焼いてみる?」そこからはじまった。キラキラした目でパンに触る子どもたちを見るのがレミーさんの喜び。

「レミー自身も子どもの頃、フランスでパン屋さんを覗いてその職人ぶりに憧れ、この道に進んだんです」とはマダムのお美由紀さん。以来、子どもたちの要望があれば土曜の午後、本業がひと息つく時間に体験教室を開くことになった。焼く前は「可愛すぎて食べられへんわ」と言っていた子どもたちが、焼き上がったルシャンを容赦なく完食する姿も面白い。



右/もちもちと弾力ある生地は均質に伸ばすだけでひと苦労 中/カスタードクリームとチョコチップをクッキー生地で作った、優しい甘さの「ルシャン」くん 左/ホットドッグやクリームサンドなどでおなじみ「ピエノワロール」

「ジュニエコ」とは小学校4・5・6年生の1チーム5人による「小さい体験」のこと。毎年9月に開かれる「八尾河内音頭まつり」で、プロの飲食屋台が軒を並べる中に出店し、自分たちが作った商品を売って利益を出し、ちゃんと納税までするというプロジェクト。あまたの中小企業経営者が聞いたら大木こだま師匠のように「そんなやつおらへんやろ」と唸るよう



グランプリチームからエール。前列左から/2016年、刑部(おさかべ)小学校「株式会社W六(わらろく)の松村愛菜さん、奈良優里さん、井田二期さん(社長) 後列左から/2015年、大正・大正北小学校「株式会社レインボードリーム」の伊藤実都さん(社長)、石坂さくらさん、伊藤さんの妹・希乃佳さん

今年仲間5人で「会社」をつくり、八尾河内音頭まつりに出店だ！小学4・5・6年生向け「ジュニエコ」

取材・文=中島 淳



あの名利・顕証寺(表紙)でセミナーや合宿をするとは!? 表彰式もここで

な快挙が毎年起こっているのだ。とはいえ小学生がモノを作って、客とコミュニケーションを取りながら売り、収支も見て……というのはぶっつけ本番にできるものではない。そこで主催者である八尾商工会議所青年部の心優しき経営者たちがサポート役となり、合宿も含めたセミナーを3回ほど実施するのだが、主役はあくまでも小学生たち。「知識や選択肢は伝えるけど、何かあった時にどうするかは教えないんです。子どもたちの自主性にまかせてます」(青年部 児林健太さん)とのスタンスで見守る。大人はガマンのしどころなのだ。セミナーでは商売の基本(笑顔とか理念とか)を学び、株主(親)に出資を募り、銀行から融資を引き出すプレゼンまである。そして材料を仕入れ、試作品を完成させ「これでいこ」となればよいよ本番だが、5人のなかで「社長」「財務部長」ほか様々な役職の役

割分担当がうまくいき、社内コミュニケーションが機能すれば売上が伸びるのだ。まさに会社！だが社内がまとまっても商売はお客さんあっての話。ネーミングを工夫し、販売当日は材料の品薄を調整し、お客のクレームに対処し、売れなければ値段を下げ、商品の組み合わせを変え……と教科書にない「現場判断」の連続。「それを乗り越えた時の喜びが大きいんです」(同・藤井伸行さん)家族や友達、親戚が応援してくれたとしても、4時間で自社商品を200個売るのは見事、の一言。しかしここでバンザイ、ではなく後日、収支報告や納税など最後の会合が開かれて、グランプリなどが決まる。自分の経験を楽しく、八尾は大阪府下1、2位を争うコミュニケーション大国だと改めて実感した。今年の参加申込締切は7月7日(金)。「小さい」に燃えろ、次世代ヤオマニアたち。

●八尾市清水町1-16
八尾商工会議所青年部事務局
☎072-922-1181
1チーム5人で申し込みを
参加料無料
(食費・入浴等実費負担分は一人2,000円)

後列右から左回りに、八尾商工会議所青年部地域創造委員会の児林健太さん、永田宏佳さん、濱道俊介さん、藤井伸行さん。子ども大好き幹部連の笑顔



上/2016年「W六」はニンジン、キャベツ、ウインナー、モヤシの入った「具だくさん焼きうどん」で勝負。300円と強気の設定だったが、味を3種用意し完売下/2015年「レインボードリーム」は漬けたジャガイモに枝豆を入れて焼いた「焼きもっち〜」2個とペットボトルで300円。雨天を乗り越え2時間で完売!

「ジュニエコ」とは小学校4・5・6年生の1チーム5人による「小さい体験」のこと。毎年9月に開かれる「八尾河内音頭まつり」で、プロの飲食屋台が軒を並べる中に出店し、自分たちが作った商品を売って利益を出し、ちゃんと納税までするというプロジェクト。あまたの中小企業経営者が聞いたら大木こだま師匠のように「そんなやつおらへんやろ」と唸るよう

のぼり持参で展示会場や地域の祭りなどに出品する。溶かしたロウで本物そっくり仕上げる食品サンプルは世界に誇る職人技術。この日はビニール製の食材に温めたロウを衣のように絡みつけることで、「おいしそうな天ぷら」が次々と揚がる!? 驚きと喜びを隠せない子どもに寄り添う富岡さんの目がキラキラと輝いていた。



右/洪川神社の「八尾もの市」で食品サンプル体験を出店中の富岡さんと真剣な表情で海老天にチャレンジする男の子。踏み台も用意している気遣いがさすが左/料理が好き、という彼女はサンプル作りも丁寧だった。1,000円で2種類作れる

●八尾市山賀町4-63(共栄化学工業)
☎072-922-1681(イベントの問い合わせや出張体験も可)

食品サンプルづくりはクセになる。共栄化学工業「とみさんの工房」

取材・文・写真=きむあつこ



富岡崇さん
地元出身で、「八尾をモノづくりの楽しいまちにしたい」と意欲満々なチャレンジヤー

年齢差を超えた大人の遠足は晴れのち汗、そして和みが……「八尾ふるさと歴史楽校」体験記

取材・文・写真=中井咲穂(近畿大学4年生)

八尾とも密接な関係のある河内~大和の史跡を訪ね歩き、地元の歴史を再発見するという趣旨で開催しているのがこの「楽校」だ。主宰はお地蔵さん特集にも登場した「高安婆、こと坂上(さかじょう)弘子さん。この日は近鉄富田駅から「河内西国三十三所観音霊場」の特別客番にも指定されている高貴寺~近つ飛鳥風土記の丘まで。物部氏の始祖・饒速日命(ニギハヤヒノミコト)を祭る磐船(いわふね)大神社にも立ち寄り。ハードな距離だが、平石城跡を過ぎ、尾根道に出ると絶景に顔がユルむ。「同じところで5分以上しゃべっても、だあれも聞いたあらへんかな」と受講生の視点も忘れない案内人の皆さんや、歴史や植物などに詳しい「隠れ博士」などタレント多数でラッキーな遠足でした。歴史好きチルドレンは、親子で一緒にぜひ!

※次回は6月17日(土)「花園から瓢箪山へ」、7月8日(土)「狭山池と龍雲寺」市政だよりにも掲載(年10回開催)。大人200円、小中学生無料。予約なしで参加OK。お問い合わせ☎072-941-7529(坂上)



1 51人の大部隊だがこれで「ふだんより少ない」とは!? 初参加は2割ほど。お姉さま軍団(オーバー60)に励まされながら登る 2 後光さす高貴寺。金堂の扁額も伝・空海筆で一見の価値 3 磐船大神社の近くには、饒速日命が天から乗ってきたとされる天磐船(岩)と、饒速日命の横顔(岩)が 4 尾根道歩きの心地よさ 5 今回の案内人「くすさん、こと補見氏 6 ゴールの近つ飛鳥博物館にて



左から紗愛(さえ)さん、紗輝(さき)さん、紗和(さわ)さん。実家の「れすとらん高砂」を手伝い、将来店を盛り立てたいそうだ。後ろは左から泉一若師匠、美道家肇師匠、久乃家勝春師匠

市 内の全小学生に呼びかけ、オーディションで選出された子どもたちが詠うのは、八尾のソウル・ミュージック、河内音頭。元気なソプラノはあの名調子……とはほど遠く、全員による「イヤコラセードツコイセ」のお囃子がほほえましく、つい口元がゆるんでしまう。歌詞を忘れ泣き出す子や、トイレから出てこないなどのハプニングは珍しくなく、廊下でのマンツーマン授業や、師匠が「無理に詠わずCDを聴いてみて。ちょっとしたことやで」と諭すなど、周囲の深い愛情に支えられ、講座修了時にはどの子も劇的な成長を遂げる。

次世代ヤオマニアの顔①

「河内音頭こども音頭とり講座」で学ぶ

小山紗輝さん(小6)
紗愛さん(小5)
紗和さん(小3)

「私の節で、みんなが踊ってくれるのがうれしい」

小山三姉妹はお父さんに勧められて昨年3人で応募したが、紗輝さんのみ合格。「オーディションのときの歌(自由曲)が短かったから落ちてん(笑)。お姉ちゃんが稽でうたっているのを見てかっこいいなと思いました」。妹2人は再チャレンジし、今年のみんなで受講中だ。家では同じ部屋にいても合唱はせず、自分のキーで練習する。「学校のみんなに自慢できるよね?」と尋ねると「うん、そういうのではない。ちゃんとうたえればいい」。詠み手の責任感を知る頼もしいコトバだ。

取材・文：きむあつこ 写真：西岡潔

河内音頭こども音頭とり講座

八尾市が行う伝統文化継承事業で、今年で7年目。練習会場であるシルキーホールの舞台上に立つだけでも貴重な体験だ。講座修了後、市内の盆踊り大会や9月9日の「八尾河内音頭まつり」で披露する。稽の上での暗れ姿は大人でもそう味わえない。

●Yaomania第20号は8月中旬発行 夏増刊号

「ザ・河内音頭ライフ」

発行—一般社団法人八尾市観光協会
編集—株式会社140B 表紙絵—須飼秀和
デザイン—山崎慎太郎 印刷—凶吉印刷株式会社
※記事の情報は2017年5月30日時点のものです。

表紙「顕証寺で雅楽」

時代劇に出て来そうな建物と、昭和の風情が交じり合う久宝寺内町。その中でも重厚な山門が目引く顕証寺は、お寺の境内や建物で様々な教室を開いています。雅楽もその一つ。厳かでゆったりとした空間は雅楽を演奏するためにあるのでは、と感じてしまいます。優美な音色が辺りを包み、寺内町を歩いた風景が頭に浮かび、いにしへのロマンに想いを馳せました。(須飼秀和)

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人びとの営みに映る郷愁を描く。著書に「私だけのふるさと」(岩波書店)など。絵本「うなぎのうーちゃん」(福音館書店)はこの5月に台湾版が出版された。



ヤオマニアの心ときめく2017夏カレンダー

※会場のMAPはP8-9ですが、夏祭りや盆踊りはMAPにのみ日程を掲載しています。イベントの開催日時は変更になる場合があります。詳しくは各施設へお問い合わせください。それ以外は八尾市観光協会まで。☎072-997-6226

6.20(火)・7.25(火)・9.21(木) 八尾の魅力セミナー

●プリズムホール4階会議室2
19:00~20:30
→6月「河内音頭あれこれ」、7月「さいとうさんの自然観察の話1」、9月「八尾のお地蔵さん」
☎072-997-6226(八尾市観光協会)

6.25(日)・7.23(日)・8.27(日) 久宝寺こうえんマルシェ

●久宝寺緑地北地区 風の広場付近
10:00~16:00
☎072-992-2489(久宝寺緑地管理事務所)

7.2(日)・8.6(日)・9.3(日) 高安山の森林整備・森の観察会

●近鉄信貴山口駅9:30集合
aquacafekani@gmail.com まで連絡を

7.22(土) 八尾バル

●近鉄八尾駅・JR八尾駅・近鉄河内山本駅周辺
12:00~23:00
→今回で13回目。もはや春・夏の風物詩として欠かせぬ八尾バル、お題は「八尾えだまめ」。和洋中にバー、スイーツなど八尾の人気店がプリプリの枝豆でメニューを競う。前売券(3,000円)は6.22(木)から八尾市観光案内所でも発売 <http://yaobar.net/>

9.9(土)・10(日) 第40回八尾河内音頭まつり

●久宝寺緑地陸上競技場・軟式野球場ほか
10:00~20:30
→40回を迎えた節目。初日は「盆ダンス〜世界最大の盆踊りLargest bon dance」が開催され、ものすごい数の踊り手が稽を囲む。請う参加者!
八尾河内音頭まつり振興会事務局
☎072-994-5741

●八尾市立歴史民俗資料館

6.17(土)~8.27(日)
企画展「慈願寺の名宝」
→蓮如の裏書のある「法円像」や「聖徳太子・親鸞・存如連座像」など戦国時代の宝物・古文書一挙公開。ミュージアムトークは7.9(日)に「慈願寺の古文書」が、8.6(日)に「慈願寺と蓮如上人」がいずれも13時に開催。講師=小谷利明 ☎072-941-3601

●安中新田会所跡旧植田家住宅

~7.10(月)
**春季企画展「植田家の祈りと願い
~仏画と文書に見る信仰とくらし」**
6.18(日)「講談とのござり音楽の会」
14:00~16:00 出演=旭堂小南院、Andre
→定員50名(申込順)。参加費1,000円
☎072-992-5311

ヤオゴト〜体験・習い事はここでも!

1 こんなに美味くていいのか!?

八尾・柏原両市の農業啓発推進委員会がタッグを組んで企画する「夏の味覚ツアー2017」は農作物の収穫体験とたっぷりの試食で幸せすぎる1日の可能性大。午前中、八尾市内の畑で枝豆を収穫したあと、アクラントYAOに移動し、園内で育った竹でお椀とお箸を作り、掘りたての枝豆を湯がいて食べ、流しそうめんも堪能するが、この後に柏原で育った極上のぶどう狩りが待っているのだ。



●7.24(月)9:00近鉄八尾駅集合、各ポイントにはマイクロバスで移動。15:00~15:30頃解散(JR高井田駅、近鉄八尾駅)。参加費大人1,500円(中学生以上)、小学生1,000円。☎072-997-6226(八尾市観光協会)

2 古代のスクープ講座が大人気

今年2月に東弓削遺跡で見つかった由義寺の塔の遺構で、幻とされていた由義寺の实在が確実となった。歴史民俗資料館の歴史講座「奈良時代を学ぼう!なぜ由義寺が建てられたのか」(全6回)はこのホットな話題がテーマ。初回から定員を超える盛況ぶり、幅広い年齢の歴史男や歴史女が集まる。お聴き逃しなく。



●7.15(土)「まぼろしの由義寺の塔 発見」講師=樋口薫氏 8.5(土)「古代の塔とその構造」講師=箱崎和久氏 9.23(祝)「瓦からみた由義寺(弓削寺)の塔」講師=大脇潔氏 13:30~当日先着60名(受付は12:30)。資料代200円 ☎072-941-3601(歴史民俗資料館)

3 河内木綿の時代を体感すべし

今年で30回目を迎える「河内木綿親子の体験学習」は親子で今までに体験したことのない綿摘み、綿繰り、糸紡ぎをする。好きな文様を型紙に彫ってテーブルセンターに藍染めする体験も。「作品を夏休みの自由研究として提出できます。過去にはコンクールで金賞を取ってプリズムホールで表彰された子どもさんもおられますよ」とは河内木綿に詳しい学芸員の李熙連伊(い・ひよんい)さん。



●8.27(日)13:00~16:00、参加費1,000円、定員は親子15組、申込は8.2(水)~13(日) ☎072-941-3601(歴史民俗資料館)

4 古代人のように手を動かして

しおんじやま古墳学習館では、歴史体験メニューが盛りだくさん。あの形が妙に気になる古代人のアクセサリー・勾玉(まがたま)作り(60~90分・1個320円)や埴輪ストラップ作り(焼成込みで約1時間・2個530円)が人気。恒例の「しおんじやま夏の体験まつり」はハニワ貯金箱づくりなど、夏休みの宿題もかねて大勢の親子が来館する。8.9(水)~28(月)実施で事前申し込み可なので、お早めにチェックを。



☎072-941-3114(しおんじやま古墳学習館)